

全国学力・学習状況調査の報告

中伊豆小学校

平成30年4月に6年生を対象に実施された全国学力・学習状況調査につきまして、本校の結果を報告いたします。

国語 Aは全国・県平均をともに下回りましたが、Bは全国・県平均をともに上回りました。

【国語A】（主として知識）

目的や意図に応じて文の続きを書く問題、ことわざの意味や漢字の読みの正答率は、全国・県平均をともに上回りました。

これに対し、俳句の情景を捉える問題、漢字の書き（当て字が多い）が課題として挙げられます。

【国語B】（主として活用）

文章全体の構成を考える問題、目的や意図に応じて引用して書く問題、登場人物の相互関係や心情・場面についての描写を捉える問題の正答率は、全校・県平均をともに上回りました。

これに対し、スピーチメモのよさや発言の意図を捉える問題、必要内容を整理して書く問題が課題として挙げられます。

自分の考えをノートに整理して書くことや作文指導を通して、既習漢字を使って条件に合わせて書く機会を数多く設けます。また、話を聞くだけでなく、目的に応じた質問をする機会を増やします。そして、各教科等で資料の読み取り方を指導します。

算数 Aは全国・県平均をともに上回りました。Bは全国平均を上回り、県平均と同じでした。

【算数A】（主として知識）

二つの数量関係、整数の乗法計算、加法と乗法の混合計算、商を分数で表す、立方体の面の面との位置関係、口を使った式、資料の整理の正答率は、全国・県平均を上回りました。

これに対し、高さが等しい平行四辺形と三角形における底辺と面積との関係の理解が課題として挙げられます。

【算数B】（主として活用）

数量を図に表す問題の正答率は、全国・県平均を上回りました。

これに対し、二つの数量関係、資料の活用、与えられた数値等を身近なものに置き換えて答えを求めること、仮平均の求め方、割合を表すグラフの定着が不十分であり、学んだことを日常生活に生かす問題が課題として挙げられます。

図形の底辺・高さ・面積、割合、文章問題については毎回、つまずきやすいものとして取り上げられていますので、その意味についてじっくりと指導し、練習問題に繰り返し取り組みます。

児童質問用紙から

地域行事への参加、友達の考えを受け止めて自分の考えを持つことは全国平均を上回っています。基本的な生活習慣を身に付けること、自尊感情をもつこと、人前で発表すること、授業で学んだことを他の学習や日常生活に生かすことなどが主に改善していきたい点となっています。

保護者の皆様、地域の皆様との一層の連携を図りつつ、子どもたちが、目標・夢・希望を抱き、社会的なことにも関心を広げながら健やかに育っていけるよう、総合的な学習、道徳、特別活動などを充実させていきます。更なる御協力をよろしくお願いいたします。